READY NOW! FIRE!!
いつ飛び立つのか、F-15からミグ-25までの世界最新鋭戦闘機の衝撃波！
世界の空軍 AIR FORCE'82
ドッグファイト
製作/セントラルアーツ 監督/K.KAWA ナレー/J.ZUCCATI
トータル・アドバイザー/S.BON GROUP 音楽/KEITH MORRISON
主題歌/ドッグファイター サントラ盤/東芝EMI
4chスーパーソニック・サウンド
配給/東映ユニバースフィルム
〈カラー作品〉

世界の空軍 AIR FORCE'82
ドッグファイト

〝ドッグファイト〟戦闘機のパイロットたちは、空中戦をそう呼ぶ。

互いに相手の尻尾に咬みつこうと、回りながら隙を狙う二匹の犬に例えられる空中戦はまさに〝犬の斗い〟さながらに、敵機の背後に巧みに回り込み、とどめの一撃与えようと死力を尽す。特に、一瞬のうちに勝敗が決る現代の空中戦は、一つのミスが死につながるというきわどさのうちに展開される。そこでは、人間の持つ不完全さが、命取りになる場合が少なくないのである。

製作/セントラルアーツ 監督/K.KAWABE ナレーター/J.ZUCCATTI
トータル・アドバイザー/S.BON GROUP 音楽/KEITH MORRISON
主題歌/ドッグファイター サントラ盤/東芝EMI 配給/東映ユニバースフィルム TUF〈カラー作品〉

ファイター・パイロットたちは、人間の限界を越える操縦テクニックを身に付ける一方各国は、人間の不完全さをカバーする完璧な戦闘機を開発し続けている。一機百億を越すような、高価な最新のスーパー・ファイターも、ただ一つの目的、ドッグファイトにうち勝つためにのみ製作され、開発に当っては、持てる技術の全てが投入される。

現代の戦闘機には、ベトナムの空戦の体験が大きく反映されている。戦闘機に、再びゼロ戦のようなびんしょう運動性を復活すること。それがベトナム戦争以後、戦闘機設計に課せられた第一の使命なのである。

特に、軽快なミグ21にしばしば苦汁をなめさせられたアメリカは、海軍のF14トムキャット、空軍のF15イーグルを登場させた。この両機が、アメリカのベトナム戦訓に対する解答なのである。

F14は、飛行状態に応じて角度を変化させる可変翼を採用することで、旋回性能とヘビーデューティを両立させることに成功した。又、F14は世界一の長射程の空対空ミサイル〝フェニックス〟を搭載し、120キロ先の6機の敵機を同時に攻撃することもできる。

F15は、機体重量を上回る推力を有する強力なエンジンの使用により、翼面積の大きな機体を、いとも軽やかに運動させる。とりわけ、上昇時にはパワーが偉力を発揮して、垂直に近い角度で戦闘高度にいち早く達し、ドッグファイト用に装備された、ヘッド・アップ・ディスプレイの中に敵機をとらえると、オートマチックに相手を攻撃する。

F14もF15も、オールマイティの重戦闘機である。アメリカ空海軍はこれにあき足らず軽量なドッグファイトのスペシャリストともいうべき戦闘機を、並行して配備している。

空軍のF16ファイティングファルコンは、まさに現代のゼロ戦とでもいうべき典型的な軽戦闘機である。ドッグファイトにうち勝つための、アクロバティックな飛行は、最も得意とするところだ。海軍のF18ホーネットも、同様の目的を持った機体である。

対するソ連は、ミグ23フロッガーと、ミグ25フォックスバットの2本立てで臨んでいる。ミグ23は、可変翼を使用した運動性の高い制空戦闘機、ミグ25はマッハ3を越える高速迎撃機だと言われる。

ヨーロッパではまず、フランスがユニークな戦闘機を開発している。ミラージュ・シリーズは、現在主力のF1からやがて2000に変換され、また配備は決っていないが、F15クラスのシュペルミラージュ4000が完成している。いずれにしてもミラージュの持味は、パワーよりは設計上のアイディアにあり、中東でミグを圧倒したIII型以来の伝統が受け継がれているものと思われる。

戦闘機開発には膨大なコストがかかる為、最近では複数の国家間で共同開発が盛んである。

英独伊のNATO三ヶ国共同開発によるトーネードは、三国の実情に合わせて多目的に使用できるよう、設計されている。可変翼は制空戦闘にも、対地攻撃にも偉力を発揮しよう。

現代の戦闘機の中で唯一の変り種は、イギリスのハリアである。垂直離着陸の特性は、空戦に新たな可能性を与えている。

これら各国で続々生み出されている、高性能のスーパー・ファイターには、いずれも機能(それも敵機を撃ち落すという機能だが)だけを追求したものの持つ美しさがある。限りない青空を自由に乱舞するジェット戦闘機の姿には、血生臭いイメージは、ほとんどうかがうことができないだろう。

だがそれは、瓜を隠した鷹に他ならない。敵機を前にして、最新のテクノロジーと、人間の奥底に眠る動物的なカンが空中で見事に一体化した時、猛禽は命を得る。

熊本東映パラス劇場
6月26日大公開